以身伝しんぶん

あらゆる人が文化・芸術の魅力を共感し合える環境整備（アクセシビリティ）の向上にむけ、障害のある人が芸術に親しみ、楽しめるプログラムを実施しました。

盲ろうの人とともに楽しむ芸術鑑賞会
日時：11月9日（金）13：30～15：00 対象：盲ろう人、盲ろうの人と芸術を楽しみたい人
協力：NPO法人しが盲ろう者友の会

盲ろうの人たちともに展覧会を見る

11月9日(金)13時半～「盲ろうの人とともに楽しむ芸術鑑賞会」が行われました。盲ろうの人、通訳の人、記者クラブの記者等全部で33名の参加です。NO-MAの1階でNO-MAやボーダレスアート等の説明の後、徳山彰さんの作品の観賞が始まりました。各々の前に作品を置き、触ってそれが何かを当てて行きます。記者が置いた作品の「警官」は、造りが細かく分かりにくそうでした。最初「動物？」と言われ、通訳の方がヒントを出し頭の部分を触って「帽子をかぶってる」。警棒、ピストルと触りながら「警官！」と当てる事ができました。この様に次々と作品を手に取り、「ヒントがわかり安すぎるわ」「昔の物やからわからないかな？」等、やり取りを楽しみました。

そして奥村家に移動。こちらはヒントなしで観賞です。鎌田さんの人形の大きさにびっくりたり、米田さんの作品の手触りの違いを楽しんだり、思い思いにゆっくりと観賞。「人形は最初怖かったけどだんだんと可愛く思えてくる」「この家を出る時、来た時とは感じ方が違う気がする」という感想がありました。

この様な企画は初めてとの事でしたが、温度の高い、濃い鑑賞会でした。

（記者：羽者家）

作品に触れて鑑賞する

盲ろうの人と盲ろうの人と芸術を楽しみたい人の鑑賞会が、11月9日（金）2つの会場で行われました。

まず第1会場であるNO-MAでスタッフより今回の鑑賞会の主旨の説明がなされ、手話通訳の方を通じ盲ろうの方に説明がなされました。

そして盲ろうの方と参加者がひとつのチームとなり今回の出展者、徳山彰さんの作品をひとつひとつ触れてみて、それが何の形をしているか一緒に導き出していきました。

徳山さんの作品はみんなが知っている日常の生活の作品が多く、参加者みんなに笑顔があふれ思い出話にまで話題が広がり会場は熱気に包まれていきました。

次に第2会場である奥村家住宅まで移動し、作品の鑑賞会は続きました。

参加された若い盲ろうの方が「こんな鑑賞会の機会を頂き感激でいっぱいでした」と言われていた事がこの鑑賞会のすべてを語っていると思いました。

（記者　久保）

最後は参加者のみんなで集合写真をパチリ。みなさんとても良い表情！

盲ろうの人と楽しむ鑑賞会を実施

時折雨の降る空模様でしたが、盲ろうの当事者・手話通訳などの支援者・一般参加者総勢30名を超える賑やかな鑑賞会でした。参加者は陶芸や人形の作品は直接、絵画は輪郭線を立体コピーに起こした触図を触って鑑賞。人形の感触に驚いたり、アイロンや車など具体的な形で造られている陶芸作品は当てっこをされたりと思い思いに楽しんで鑑賞されていました。作品や作者解説は点字や音声案内もありましたが、皆さん作品鑑賞に夢中で、あまり利用されず。スタッフの皆さんとしては残念だったかも？？是非、NO-MAへ来られた際は体験してください。残念と言えば、絵画は線を触っても、全体像を結ぶことが難しく、鑑賞していただくにはまだ改良が必要な様子。筆者も体験してみましたが、触覚から絵を想像することは、絵を視覚で認識した後でも困難でした。工夫の余地はあるものの、当事者の方からまた来たいとの声も上がり（途中帰る予定にしていた方が最後までいらっしゃったほど！）、笑顔が絶えませんでした。

（記者　伊賀）

鎌田紀子さんの作品を触って鑑賞

ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら
https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club